



平成27年2月13日(金)

のしろ市民まちづくりフォーラム 編

2月13日(金)、能代市海詠坂の木材高度加工研究所にて「のしろ市民まちづくりフォーラム～日本風景街道を通して私たちにできること 7～」を開催しました。暴風雪警報が発表された荒天の影響か、聴講者は30人程度といったところだったでしょうか。

今年の講師には、山形県酒田市から、酒田まちづくり開発株式会社の西村修さんをお迎えし、「酒田の地域資源の発掘とまちづくり」と題してご講演頂きました。

酒田まちづくり開発の代表取締役として、様々なアイデアを駆使した取り組み、特に寄付や募金で事業をするという考え方は大変興味深かったです。実は私も同じ案を持っていて(後出しジャンケンですみません)、毎年のように資金難で、今年限りで終わりと言われている「おなごり」にこの方式を使えばいいのに。寄付した方はきっと見に来て下さるし…と前から思っていましたので、実現可能なんだなあと思付かされました。

それと、“行政手続きが大変な場合の対処法”について、西村さんはこうおっしゃってありました。「逆にどうしたら出来るのですか？と問いかけてすれば、行政マンが逆にアイデアを出してくれる」と。なかには一緒になって真剣に考えてくれる役人もいます。使い方次第だということです！！(誰ですかそんな人にまだ出会ったことないって言うてるのは。)西村さん、ぜひまた能代へ、今度は観光客としてお越し下さい。

話題提供者として今回はお二人の方においで頂きました。能代商工会議所青年部会長の佐藤善典さんと、酒田市中通り商店街元理事長の佐藤英夫さん。

商工会議所の佐藤さんには「ブヒ串」を商品化させて、能代のB級グルメとして必ずやヒットさせて欲しいです(B級のBはブヒのBということでしょうか)。各地での出店を商工会議所青年部の単なるイベントとして終わらせないで、導火線となって能代の商いに火をつけて欲しいです！！

日本一明るい仏壇屋を自称する佐藤さん。このフレーズからすぐに、前向きな発想の持ち主ではないかと想像できます。震災直後は防災朝市の当事者として、藤村さんの教え



約30名の参加がありました。



西村 修 氏



佐藤 善典 氏



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

を体現した、まさに藤村さんが昨年行った講演内容の証言者ですね。のしろ白神ネットワークは地域防災を活動テーマのひとつに掲げておりますし、おかげさまで、昨年から防災朝市の一員に加えて頂き感謝申し上げます。“おいしい防災、楽しい防災”を参考に能代の地域防災に活かしていければと思います。今度は奥様の“幸美ねえさん”と一緒に能代へおいで頂いて、能登代表、平山会長と更に親交を深めて頂ければと思います、お待ちしております。

後半のパネルディスカッションでは多くの参考になり又興味深いお話を頂きました。個人的に印象深かったところをご紹介させていただきます。まず、酒田の西村さん「きっかけは何でもいいから、観光振興よりも交流人口を増やすことが大事！」、「宿泊数を増やすこと！⇒宿泊させるコツは『集合時間を早くする→前泊する』『前夜祭やります→前泊する』『反省会やります→当日泊する』」だそうですよ能代の皆さん！！

青年部の佐藤さんに対しては、会場から能代にお客さんをどう降ろすかについてのビジョンを問う発言がありました。これに対して能代の商店街は個人事業主が多いため、誘客のための新たな事業になかなか従事できないという現状の紹介がありました。昨年の藤村さんの講演の中で、「1日中接客しっぱなしってことは無いのだから、『半分商売、半分まちづくり』的な発想に切り替えて、客が来るのを待つのではなく獲得しにいけ！」というお話がありました。これは参考になるのではないのでしょうか。

そして酒田の佐藤さん、「自分の所の良さは外から来た人、外から見ている人のほうが気付いている場合がある。他地域間交流をすることで地域の隠れた特産品を探しあてることが可能になり、これが今後鍵になる」とおっしゃっていました。

遠藤事務所長、「道を使って地域の魅力や能代らしさを演出するというのしろ白神ネットワークの活動であることから、道の駅の活用に着目してはどうか。全国 1040 箇所、地域のゲートウェイ的役割を果たす道の駅も出てきている中で、道の駅を情報発信の場や連携の相手として着目してみるのも一つの案ではないでしょうか」という提言がありました。

齊藤市長、「市民が地域資源に気付いて認めているか」「能代には、能代工業に代表されるバスケット(全国優勝 58 回)、日本一高い秋田杉 58m、それから天空の不夜城、動く城郭



佐藤 英夫 氏



パネルディスカッションのようす





## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

灯笼としては日本一の 24.1m」という具合にいっぱい(3 つも)ある。この3 つの日本一を活かして、まちを元気にしていきたい。市民の皆さんの力を借りて、まちづくりを頑張っていく！というご発言がありました。

最後に藤村さん、「5 万人の都市が 20 都市連携すれば、100 万人都市になれる。この連携で流通を成立させることが可能ではないかと考えていた。」また「同じような発想で、近江八幡市が行政レベルでの連携を実践していて既に 52 万人を達成している。」これをネットワークの一つの方法として考えて頂きたいというお話を頂きました。

今回のフォーラムは実に内容の濃い充実した意見交換の場になったなあと感じております。酒田からお越しの西村さん、佐藤さん、鎌倉からお越しの藤村さん、当日は暴風雪の嵐の中、遠路はるばる能代までお越し頂き、ありがとうございました。能代商工会議所青年部の佐藤さん、能代のまちづくりのために今後とものしろ白神ネットワークとの関わりを継続して頂けたらと思います。

そして齊藤市長、体調が万全ではない中で、しかも多忙なスケジュールを繰り合わせて、4 時間にも及ぶ長時間ご参加頂き、ありがとうございました。任意団体の活動は行政の支援がなければ立ちゆかない場面もありますので、今回市長にご参加頂いたことは活動を行う団体の今後において心強いです。

国土交通省からは遠藤所長、道の駅を核にした地域の魅力の情報発信と連携について提言しました。のしろ白神ネットワークと能代河川国道事務所は地域づくりのパートナーとして今後も連携を継続していきます。

渡辺先生が言うておられました。「水を飲みたくない牛は、どんなに引っぱっても水場へ動かない。こんなに天気が悪くても今日のフォーラムに集まった方々は、相当に喉が渇いているはずだ」と。

皆さんいっぱい飲みましたか？明日からの皆さんの活動が少しでもいいから着実に前進し、そして潤いますように。

一句

「荒れ狂う空からおりた望洋の 渇いた喉に染みいるお言葉」

文：岩澤 功英



フォーラムに先立ち、これまでまち灯りのチラシの配布・印刷に多大なるご協力をいただいていた能代商工会議所青年部へ感謝状の贈呈を行いました。



フォーラム翌日はまち灯り・冬の開催日ということで、会場後方には当日設置される色々な灯りやチラシの展示を行いました。



フォーラムのテーマの一つには「防災」もあります。会場外の廊下には、国土省の東日本大震災の被災地の被害や復旧・復興状況を示すパネルも展示しました。